

県政の動き

12月11日(日)～2月10日(金)

- 12月12日(月) ★H-IIAロケット20号機打ち上げ
- 12月14日(水) 観光まごころ県民運動会長表彰式
- 12月16日(金)～17日(土) ★第21回全国産業教育フェア鹿児島大会 (さんフェア鹿児島2011)
- 12月22日(木) ★国民文化祭内定書交付式
- 12月26日(月) ★県ドクターヘリ運航開始式
- 1月8日(日) 「はたちの献血」街頭キャンペーン
- 1月12日(木) ★桜島火山爆発総合防災訓練
- 1月14日(土) 地域医療フォーラム in 大隅
- 1月14日(土) かごしま就農・就業相談会
- 1月17日(火) ★第16回鹿児島シンガポール交流会議
- 1月19日(木) 奄美群島振興開発審議会
- 1月19日(木)・20日(金)・24日(火) 高校生のための就職面接会
- 1月20日(金) ★知事トップセールス、鹿児島島のタペ
- 1月22日(日) ★平成23年度かごしまものづくり郷中塾報告会
- 2月3日(金) 福祉の職場就職面談会
- 2月7日(火) 人権同和問題県民のつどい
- 2月8日(水) 平成23年度鹿児島県森林・林業振興大会

★は写真入りで紹介

12月12日(月)

H-IIAロケット20号機打ち上げ



三菱重工業株式会社および独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)は、平成23年12月12日午前10時21分、南種子町の種子島宇宙センターから、H-IIAロケット20号機を打ち上げ、情報収集衛星リーダー3号機を所定の軌道に投入した。H-IIAロケットは、今回の打ち上げで連続14機成功となり、通算の成功率は世界最高水準の95%となった。

また、JAXAは、肝付町の内之浦宇宙空間観測所から平成23年12月19日午後11時48分に観測ロケットS-1310-40号機、平成24年1月12日午前5時51分には観測ロケットS-1520-26号機の打ち上げに成功した。

12月16日(金)～17日(土)

第21回全国産業教育フェア鹿児島大会 (さんフェア鹿児島2011)



専門高校などの生徒による学習成果発表の祭典「第21回全国産業教育フェア鹿児島大会」を鹿児島市のかごしま県民交流センターをメイン会場に、市内6カ所の会場において開催した。

会場では専門高校生による研究発表・作品展示、生産物の即売のほか、フラワーアレンジメントや電子工作など学習内容が体験できる催しやエコクッキングコンテストなどの競技大会も行った。

2日間で延べ約9万6千人の来場者を迎え、魅力ある産業教育の取り組みを鹿児島から全国に発信した。



国民文化祭内定書交付式



平成27年度の第30回国民文化祭の開催地として本県が内定し、文化庁において、近藤文化庁長官から伊藤知事へ内定書が交付された。

国民文化祭は、昭和61年度から各都道府県持ち回りで開催されている全国規模の文化の祭典である。

今後、県では、県民総参加のもと、「本物。鹿児島県」の多彩な魅力を全国に情報発信し、鹿児島に来てよかったと思っただけのような、おもてなしの心にあふれた大会となるよう準備を進めていく。

県ドクターヘリ運航開始式



県本土、甑島、熊毛地域、三島村、十島村（一部）を運航範囲とするドクターヘリの運航開始式が、鹿児島市の浜町ヘリポートで開催された。

ドクターヘリは、医療機器や医薬品を搭載した救急医療専用のヘリコプターで、専門の医師と看護師が搭乗して救急現場などに急行し、現地で患者の治療を開始するとともに、いち早く医療機関へ搬送するもの。鹿児島市立病院を運航主体として実施される。

ドクターヘリの運航で、一人でも多くの県民の皆さまの命が救われるよう円滑な運用に努めていく。



桜島火山爆発総合防災訓練



桜島の大爆発による火砕流や噴石、火災などに加え、鹿児島湾を震源とする震度6弱の地震や津波への警戒を想定した「桜島火山爆発総合防災訓練」を鹿児島市および垂水市で実施した。

当日は、「地域の連携による防災力の向上」をテーマに防災関係機関、医療・福祉施設、小中学校など141団体と地域住民の方々をあわせて約4500人が参加した。

現地訓練では、自主的な避難行動と地域住民の「共助」による島外避難訓練が行われたほか、自主防災会を加えた合同救出救護訓練などが行われた。

また、県庁では伊藤知事を災害対策本部長として、災害対策本部会議訓練や情報伝達訓練などを実施した。



第16回鹿児島・シンガポール交流会議



シンガポールにおいて、鹿児島・シンガポール交流会議を開催し、経済交流、観光交流、人的交流などの各分野での交流促進について意見交換を行うとともに、鹿児島島の農畜水産物の輸出促進、観光交流の促進、青少年交流団の相互派遣など、今後の具体的な交流プログラム10項目について合意した。

また、交流会議にあわせて、鹿児島島から72人の訪問団がシンガポールを訪問して、交流会議のほか、商談会、観光セミナー、トップセールス、レストランフェアなどさまざまな関連事業を実施し、鹿児島島の魅力を広くアピールした。



知事トップセールス、鹿児島島のタベ



伊藤知事は、鹿児島県産のスギを活用してオフィス家具の新製品を共同で開発・商品化した株式会社岡村製作所と、東京都内において記者会見を開き、本県産の木材をPRした。

また、年間を通して、全国の店舗で「鹿児島フェア」を開催しているイオンリテール株式会社の子会社村井社長とトップ会談を行い、本県の特産品をPRした。

同日、「鹿児島島から元気を発信」をテーマに、都内のホテルで開催した「鹿児島島のタベ」には、鹿児島島にゆかりのある方が多数出席し、大島紬に身を包んだ伊藤知事が、「本物。鹿児島島の魅力のアピール」した。



平成23年度かごしまものづくり郷中塾報告会



鹿児島島で伝統的に伝わる「郷中教育」の精神をもとに、県内の中小企業の若手経営者などが、変革の時代の経営者の役割や商品開発の手法などを実践形式で学ぶ「かごしまものづくり郷中塾」の報告会を鹿児島島市内で開催した。

同塾は、14社約30人が受講し、一橋大学名誉教授の関満博塾頭など著名な講師陣が、後継者育成・商品開発マーケティングのテーマで、上海や北海道への視察を含め、全6回の研修を実施した。

報告会では、「自社の経営戦略を考える良いきっかけになった」、「県内外の異業種との交流がとても刺激になった」などの感想が寄せられた。

